

日本人ホスト向け中国人との交流に向けた文化アシミレーター作成に向けて ―課題の試作と評価―

中 野 祥 子
田 中 共 子

要旨

本研究では、日本人と在日中国人留学生との異文化交流における葛藤を軽減するための異文化間教育の教材として、日本人ホスト向けの「中国文化アシミレーター」を試作した。中国人留学生31名を対象に質問紙調査を行い、7つの困難場面から5つを選定した。文化摩擦を反映したエピソードの適切さと解説の精度を検討した。その結果、この文化アシミレーターは一定の効果を持つことが示唆され、日本人が中国文化を理解し、円滑な異文化交流を促進する教材としての可能性が確認された。

キーワード

文化アシミレーター，中国人留学生，中国文化，異文化葛藤

1 はじめに

1.1 研究の背景

在日留学生数は2023年5月時点で279,274人に達した（日本学生支援機構，2024）。日本政府は今後10年以内に外国人留学生の受け入れを40万人にまで増やす意向を示しており（文部科学省，2023），大学内での異文化接触の機会は増加する見込みである。中でも中国人留学生は在日留学生の約半数を占め，その数は10万人を超えている（日本学生支援機構，2024）。中国は地理的にも文化的にも身近な国であるが，両者の対人交流には文化的価値観や行動様式の違いによる文化摩擦が生じることがわかっている（村山，1995；朱・呉，1997；奥西，2012）。

中野・田中（2024）では，中国人留学生と日本人との対人交流場面における異文化葛藤を調べた。そこでは，在日中国人留学生が，距離感，男女関係，間接表現の使用に関する文化差に戸惑いを感じる「個人間のやりとり

における戸惑い」と，習慣，中国人への態度，日本人の礼儀正しさ，調和を重んじる感覚などの違いに戸惑いを感じる「日本の社交場面での振る舞い」，公的サービスや敬語の使用などを含めた社会文化的文脈下におけるマナーの違いに戸惑いを感じる「社会的場面における戸惑い」を経験していることが明らかになった。しかしながら，中国人留学生と日本人との対人交流における文化的サポートとして期待される具体的な方法としての異文化間教育は未発達である。

1.2 文化アシミレーター

両者における対人行動上の異文化葛藤の緩和に寄与する方法の一つとして，中国文化に特化した「文化アシミレーター：culture assimilator」（Fiedler，Mitchell，& Triandis，1971）の活用が考えられる。文化アシミレーターとは，異文化接触に伴う誤解や摩擦の典型的な事例を提示し，それらに対

する文化的に適切な理解を促すための多肢選択型の学習教材である。学習者は事例を読み、提示された4つの選択肢の中から最も適切な解釈を選択することを求められる。さらに、学習後に各選択肢の解説を読むことで、異文化理解や異文化適応能力の向上が期待されるとともに、問題に対する原因帰属の柔軟性が養われる(渡辺, 1994)。

文化アシミレーターを用いた既存の研究としては、日本語学習者を対象とし、日本人と留学生の文化摩擦をテーマにした教材や、イスラーム教徒の留学生との交流に焦点を当てた日本人学生向けの教材が報告されている

(三角, 1998 ; 中野・田中, 2019)。しかしながら、中国人留学生と日本人との交流に特化した、「中国文化」に焦点を当てた文化アシミレーターの開発は、十分に進められているとはいえない。そこで日本における中国人留学生との円滑な異文化交流を促進するためには、中国文化を理解するための文化アシミレーターの開発が期待され、その開発には大きな価値があるといえよう。

1.3 本研究の目的

本研究の目的は、日本人ホストが中国人留学生との対人交流について学ぶ「中国文化アシミレーター」を完成させていくための情報を得ることである。具体的には、中野・田中(2024)で明らかになった両者の対人行動上の困難場面を基に7つの困難場面の教示文および選択肢、解説を試作する。そして、中国人留学生への質問紙調査を通じて、課題場面の選定と選択肢、解説の精緻化を試みる。本研究は、日本人ホスト向け文化アシミレーターの作成過程における予備的調査として位置づけられる。

2 研究方法

2.1 調査対象者

在日中国人留学生 31 名(うち 90.3%は大

学院生)である。平均年齢は25.1歳($SD=2.6$)。出身地は、中国北部が51.6%、南部が48.4%である。日本滞在期間は1年未満が35.4%、1年以上2年未満が38.7%、2年以上3年未満が6.45%、3年以上が19.4%であった。日本語力は、上級(N1, N2)が74.2%、中級(N3)が9.6%、初級(N4, N5)が16.1%であった。

2.2 手続き・分析

縁故法を用いて調査協力者を募り、研究の趣旨とプライバシー保護について説明したうえで、承諾を得た者に質問紙調査を実施した。質問紙は、日本語と中国語で作成し、中国語版についてはバックトランスレーションを行った。自由記述の回答は、意味的なまとまりごとに分類し、カード化した後、KJ法(川喜田, 1967)を用いて類似内容をまとめた。

2.3 質問紙の内容

試作した7つの課題場面について、それぞれの教示文および選択肢、解説の適切さについて問う質問を設けた。例えば、「今回のエピソード(教示文)と選択肢と解説について適切でないと思うところはあるか」と尋ね、「適当である」「どちらでもない」「適当でない点があると思う」の3段階で評価してもらい、その理由について自由に記述してもらった。さらに、7つの課題場面から5つの課題場面に絞る意図から、中国文化を学習する教材として重要であると思う課題場面を5つ選んでもらった。

選択肢は、中野・田中(2019)にならって、以下の4つの視点で作成した。

- ①個人のパーソナリティーへの帰属
- ②母国と日本との文化差への帰属
- ③正確な知識に基づく文化差への帰属
- ④誤った知識に基づく文化差への帰属

質問紙に用いた文化アシミレーターの教示文、選択肢、解説を表1から表7に示す。

表 1 課題場面①「個別会計」

日本人学生のあなたには、Aさんという中国人留学生の友達があります。Aさんは日本に来たばかりで、まだ一度も校内の食堂以外での外食をしたことがないそうです。あなたは「美味しいお店を知っているよ」とAさんを外食に誘いました。お店に着いて、あなたは800円の定食を、Aさんは700円の定食を頼みました。2人でしゃべりながら食事を楽しみました。食べ終わったところで、あなたは「そろそろ帰ろうか。私が先に自分の分を払うね。」と言いました。Aさんはその発言に戸惑っているようでした。

問い: どうしてAさんは戸惑ったのでしょうか。

- ① Aさんはデザートも食べたく、まだ帰りたくなかったから。
- ② Aさんはもう少し、お店であなたとお喋りしたかったから。
- ③ 中国では普通、割り勘はしないから。
- ④ 中国では普通、友達同士だとどちらか一方が奢るから。

答え: ④

解説: 中国では一般的に、友人同士の食事ではどちらか一方が奢ることが多いようです。ただし、中国にも「AA制」と呼ばれる割り勘の習慣があり、その場合は代金の合計を人数で割り、全員が同じ金額を支払います。しかし、友人同士では交代で奢り合うのが一般的であり、お金のこたわりと「水臭い」と思われることがあるため、日本のように一人一人が自分の分だけを支払う割り勘の仕方はあまり行われません。一方で、日本に滞在するうちに日本式の割り勘に慣れる人もおり、親しくない相手との割り勘を気にしなくなることもあります。また、食事に誘った側が奢るべきだと考える人や、男女が一緒に食事をする場合には男性が奢るべきだと考える人もいます。

表 2 課題場面②「返信の遅さ」

日本人のあなたには、中国人留学生の友人が2人います。AさんとBさんです。冬休みにこの2人と一緒に遊びたいと思い、それぞれに個別のLINEで予定を尋ねました。すると、Aさんからは1分も経たないうちに返信がありました。驚いて「返信が速いね」と送ると、「中国人は、気がついたらすぐに返信することが多いよ」と返事がありました。一方で、Bさんからは5時間経っても返信がありません。そういえば、BさんはいつもLINEの返信が遅い、とあなたは思いました。

問い: どうしてBさんからのLINEの返信は遅いのでしょうか。

- ① Bさんは、あなたとそれほど仲良くしたいと思っていないから。
- ② 中国では、北部と南部で文化が異なり、Bさんは南部の出身のため、もともとLINEの返信が遅かったから。
- ③ Bさんは、日本で暮らしているうちに、日本人のペースに合わせてLINEを返すようになったから。
- ④ Bさんはアルバイト中で、返信する余裕がなかったから。

答え: ③

解説: 中国では、LINEの通知に気づくとすぐに返信する人が多いようです。これは、迅速な返信が相手を大切にしている証だと考えられているためです。また、中国では職場でも携帯で仕事のやりとりやメールを確認することが珍しくなく、勤務中でも返信する人がいます。そのため、日本人のLINEの返信速度が遅く感じられ、不安や戸惑いを覚える中国人も少なくありません。ただし、日本に長く滞在するうちに、日本人のペースに合わせて返信するようになる人も見られます。

表 3 課題場面③「ボディータッチの少なさ」

あなたは、中国人留学生のAさんと一緒にお祭りに行くことになりました。並んで歩いていると、Aさんが突然あなたの肩に腕を回しました。あなたは驚いたものの、何も言えず、そのまま歩き続けました。

問い: どうしてAさんは肩を組んできたのでしょうか。

- ① 中国では、友人同士が肩を組むのは珍しくないから。
- ② 中国には「メンツ」という文化があり、肩を組むことで仲の良さを周囲に示したかったから。
- ③ お祭りの雰囲気気分が高まっていたから。
- ④ 人混みの中ではぐれると迷子になりそうだと考えたから。

答え: ①

解説: 中国では、肩を組んだり腕を組んだりすることは珍しいことではないようです。これらの行為は親密さを示すものであり、落ち込んでいるときなどに力をもらいたいと感じるときにも行われることがあります。関係性が浅い人同士でも、肩を組んだり腕を組んだりすることがあるのです。中国には「メンツ」という文化があるとされていますが、これは「みんなの前で恥をかきたくない」「みんなの前で恥をかかされたくない」といった、社会的評判に関する感じ方や考え方に基づくものです。そのため、個人間の関係においてはそこまで気にされることは少ないようです。

表 4 課題場面④「告白のしかた」

あなたは日本人の男性で、中国人の女子留学生である A さんに告白しようと決めています。A さんとは知り合ってから一年以上が経ち、共通の友人から聞いた話や、日頃の A さんの言動から、あなたは A さんがあなたに好意を持っているのではないかと感じていました。ある日、2 人きりで買い物をしているとき、あなたは思い切って「A さんのことが好きです」と告白しました。すると、A さんは少し戸惑った様子を見せました。

問い: どうして A さんは戸惑ったのでしょうか。

- ① A さんは、本当はあなたのことをそんなに好きではなかったから。
- ② 中国では普通、告白する前に、自分の本気度を相手に伝える何らかの行動を取ったうえで、告白するときにもサプライズやプレゼントを用意するから。
- ③ 中国では普通、食事に誘ってから告白するから。
- ④ A さんには、既に恋人がいたから。

答え: ②

解説: 中国では、男性が告白する際、告白する前にプレゼント(食べ物やぬいぐるみなど)を渡したり、LINE で「彼氏はいますか?」や「好きな人はいますか?」といったやり取りをしたりを通じて、自分の本気度を相手に伝えることが一般的です。また、告白の際にもサプライズやプレゼントを用意することが多いです。もし本気度を伝えるプロセスがなく、言葉だけで告白してしまうと、相手に「本当にこの人は自分のことを好きなのだろうか?」と思われる可能性があります。女性の場合でも、告白する際に相手にプレゼントを贈ることがよくあります。

表 5 課題場面⑤「間接表現」

あなたは日本人で、中国人留学生の A さんに日本語の作文の添削を頼まれました。A さんのパソコン画面に映っている作文に目を通して、主語と目的語の位置が文法的におかしい箇所を見つけました。あなたは「この文でも意味は通じるけど、この部分はこう直した方が自然かもしれない」と A さんに教えてあげました。しかし、A さんはその箇所を一向に直そうとしません。あなたは痺れを切らして、先ほどよりも強い口調で「この文章はこうした方が自然だと思うよ」と再度指摘しました。A さんは少し戸惑った様子を見せました。

問い: どうして A さんは戸惑ったのでしょうか。

- ① A さんは、あなたの指摘を「直したくなければ直さなくてもよい」と解釈していたため、もう一度強めの口調で指摘されたことに驚いたから。
- ② A さんは、後でじっくり考えながら直そうと思っていたため、もう一度強めの口調で指摘されたことに驚いたから。
- ③ A さんは、他の人の意見も聞いた上で直そうと考えていたため、もう一度強めの口調で指摘されたことに驚いたから。
- ④ 中国では、教える立場の人が高圧的な態度を取ることは良しとされないため、あなたが強めの口調で指摘してきたことに驚いたから。

答え: ①

解説: 中国では、日本よりも直接的な表現を使って自分の考えを主張することが一般的です。そのため、間接的な表現での指摘が「それはあなたの一つの意見に過ぎないので、絶対に直す必要はない」と解釈されることは珍しくありません。結果として、日本人が伝えたつもりでも、中国人留学生にはその真意が伝わらないことがあります。

表 6 課題場面⑥「驚いたときのリアクション」

日本人のあなたは、日本人の知人 A さんに中国人留学生の B さんをカフェで紹介してもらいました。B さんは 20 代前半の学生で、日本に来てまだ 2 ヶ月だそうです。B さんと話をしていると、B さんがすでに結婚していることが分かりました。あなたは思わず「ええっ!? もう結婚してるんですかっ!?」と驚いてしまいました。B さんは戸惑った様子を見せました。

問い: どうして B さんは戸惑ったのでしょうか。

- ① あなたの日本語が聞き取れなかったから。
- ② 中国では、20 代で結婚することは珍しくなく、驚かれたことに動揺したから。
- ③ 他の人に聞こえる場所で、結婚していることを大声で触れられたことに動揺したから。
- ④ あなたのリアクションが大きく、驚いたから。

答え: ④

解説: 驚いた時、中国では一般的に「どうして?」と理由を尋ねたり、質問をする傾向があります。それほどのことでない限り、あまり大きなリアクション(「へえー」や「ええっ!」)は返さないようです。日本人のように表情で驚きを表現する中国人は少なく、「可愛いー!」や「おいしいー!」といったリアクションも大げさに感じて戸惑う中国人もいるようです。

表 7 課題場面⑦「歓迎会での振る舞い」

新しくゼミに入ってきた中国人留学生の A さんのために、日本人のあなたは歓迎会を開くことに決めました。A さんにそのことを伝え、参加費が一人 2000 円ほどかかることを伝えたところ、A さんは戸惑っているようでした。

問い: どうして A さんは戸惑ったのでしょうか。

- ① 値段が思ったよりも高かったから。
- ② 中国では、普通、歓迎会を開かないから。
- ③ 中国では、普通、歓迎される人は歓迎会でお金を払う必要がないから。
- ④ 歓迎会に参加したくなかったから。

答え: ③

解説: 中国の歓迎会では、歓迎される人はお金を払う必要がなく、それ以外の参加者が費用を負担するのが一般的です。もし歓迎される人にお金を請求すると、そのグループが非常識だという印象を与えてしまう可能性があります。

3 結果と考察

3.1 各課題場面のエピソードの適切さ

以下に、各エピソードの適切さに関する質問への回答の集計と、自由記述で得られたコメントについて報告する。

3.1.1 課題場面①（個別会計）について

教示文と選択肢、解説について、「適切でないと思うところはあるか」という問いに対して、20名が回答した。「適切であると思う」が 38.7%，「適切でない点があると思う」が 58.1%，「どちらでもない」は 3.2%であった。

自由記述では、課題場面の適切性について以下のようなコメントがみられた。コメントの件数を括弧内に付して示す。まず場面は適切であるとした意見として、「中国では、個別会計の場合、一人が先に支払った後、他の人が自分の分のお金、もしくは全体の平均額を支払った人に渡すため、日本とはやり方が異なる（4件）」、「お祝い事やビジネスの場面では、遠方からの客や新人には奢る（4件）」といった意見がみられた。

一方、適切性を欠くとした理由としては、「学生同士なら AA 制（割り勘）を選択することができる（1件）」、「中国の若者は、割り勘をする人が多い（1件）」、「特に若者の間では、日本のような割り勘をしてもおかしくない（1件）」といった意見が見受けられた。また、「自分の周りの友人は AA 制がほとんどだが、両親の世代は友人との外食を交

代で支払う（1件）」といった意見もあった。さらに、「どちらでもない」を選んだ理由の記述は「交代で奢るか AA 制にするかは人や状況による（1件）」、「エピソード自体は間違いではないが、割り勘や個別会計には戸惑わない（1件）」、「多くの人は AA 制で支払う（1件）」などがあった。

3.1.2 課題場面②（返信の遅さ）について

教示文と選択肢、解説の適切性について、「適切であると思う」と回答した者が 61.3%，「適切でない点があると思う」と回答した者が 29.0%，「どちらでもない」と回答した者が 9.7%であった。

自由記述では、課題のエピソードが適切であると判断した理由について、「一部の中国人は、日本人が自分と話したくないためにわざと返信を遅くしていると誤解している（2件）」、「話したくない相手の場合、中国人は返信が非常に遅くなる（2件）」という意見がみられた。

適切性に欠ける理由として、「答えとして提示されている選択肢よりも別の選択肢のほうがより適切だと思う（4件）」、「返信が遅い理由にはさまざまな要因がある（3件）」、「中国にも返信の遅い人はいる（2件）」という意見が挙げられた。

3.1.3 課題場面③（ボディータッチの少なさ）

教示文と選択肢、解説の適切性について、

「適切であると思う」と回答した割合は74.2%、「適切でない点があると思う」は19.4%、「どちらでもない」は6.5%であった。

自由記述では「大人同士は肩を組んだり腕を組んだりすることはあまりない（2件）」、「女性同士ではよく見かける（3件）」、「男性同士ではあまり見かけない（2件）」、「異性同士ではあまりしない（2件）」といった意見がみられた。また、課題場面を支持する意見として、「身体的接触は親密さの表現である（1件）」、「高校時代には自分もよくやっていた（1件）」、「中国では、男女にかかわらず適切なボディータッチに嫌悪感はない（2件）」といった記述もみられた。

さらに、「男子は肩や腕を組み、女子は手や腕をつなぐ（3件）」、「メンツには、見せびらかす、ひけらかすという心理も含まれる（1件）」といった、解説にはなかった詳細な情報も記されていた。

3.1.4 課題場面④（告白のしかた）

教示文と選択肢、解説の適切性について、「適切であると思う」と回答した割合は45.2%、「適切でない点があると思う」は48.4%、「どちらでもない」は6.5%であった。

自由記述では、適切であると考えた理由として、「自分も突然告白されたら戸惑うだろう（2件）」、「自分も告白する前に、自分の好意を伝える行動をする（2件）」、「告白の際に贈り物をするのはよくある（1件）」といった意見がみられた。

一方で、適切でない理由として、「人によって異なる（7件）」、「贈り物を用意せずに告白した経験がある（4件）」、「他の選択肢のほうが適切である（2件）」、「お題がかなり偏っている（1件）」、「エピソードの女の子はマナーとして友達と一緒に買い物にきているだけで、必ずしも彼氏・彼女になりたいというわけではない可能性がある（1件）」、「付き合ってくださいと言わな

かったことが戸惑いの原因かもしれない（1件）」といった記述がみられた。

3.1.5 課題場面⑤（間接表現）

教示文と選択肢、解説の適切性について、「適切であると思う」と回答した割合は83.9%、「適切でない点があると思う」は16.1%であった。

自由記述では、適切であると考えた理由として、「この戸惑いに共感する（3件）」、「エピソード中の日本人は正しく指摘すべきである（1件）」といった記述がみられた。

一方、不適切であると感じた理由としては、「人によって違う（1件）」、「他の選択肢の可能性もある（1件）」、「選択肢④はやや曖昧（1件）」といった意見がみられた。

3.1.6 課題場面⑥（驚いた時のリアクション）

教示文と選択肢、解説の適切性について、「適切であると思う」と回答した割合は74.2%、「適切でない点があると思う」は25.8%であった。

自由記述において、適切であると考えた理由として、「日本人の『可愛い』や『美味しい』という表現は、かなり大げさに感じる（2件）」という意見がみられた。

一方で、不適切であると考えた理由として、「人による（2件）」、「二十代前半での結婚は確かに驚くので、リアクションが大きくても仕方ない（2件）」、「他の選択肢もあり得る（1件）」といった意見が挙げられた。

その他の意見として、「リアクションには、良いリアクションと悪いリアクションがある（1件）」、「中国人には否定のリアクションが多い（1件）」といった記述がみられた。

3.1.7 課題場面⑦歓迎会での振る舞い

教示文と選択肢、解説の適切性については、「適切であると思う」と答えた割合が77.4%、「適切でない点があると思う」と回答した割

合が 22.6% であった。自由記述では、本エピソードを肯定する意見として「中国での同様のイベントでは、普通個人が支払う必要がない（4 件）」、「中国では歓迎会が開かれる場合、歓迎される側はお金を払わず、その代わりに日常生活でみんなに恩返しする（1 件）」や「中国では普通、宴会を開催する人が支払う、あるいは皆の意見が一致したときに AA 制で支払う」といった意見がみられた。

一方で、適切性に欠ける理由としては、「中国では歓迎会はあまり一般的ではない（6 件）」、「日本の歓迎会に参加した際、歓迎される側はお金を払う必要がなかった（2 件）」や「お金を請求するのは妥当である（2 件）」といった記述がみられた。

3.2. 各課題場面の優先順位

各課題場面のエピソードの中でどの場면을文化アシミレーターの題材として取り上げるべきかについて、優先度が高いものから順に選んでもらった。その結果、多く選ばれた順に、課題場面⑤（間接表現）77.4%，課題場面⑦（歓迎での振る舞い）および課題場面②（返信の遅さ）71.0%，課題場面①（個別会計）67.7%，課題場面③（ボディータッチの少なさ）64.5%，課題場面⑥（驚いた時のリアクション）51.6%，課題場面④（告白のしかた）41.9% であった。上位 5 つは、6 割を超える回答者から選ばれた。

3.3 性別・出身別からみた課題場面の評価

アシミレーターの題材として適切だと思うものについて、性別や出身地による違いがあるかを調べた（表 8）。女性では、多い順に、間接表現（88.2%）、返信の遅さ・ボディータッチの少なさ・歓迎会での振る舞い（70.6%）、個別会計（64.7%）、驚いた時のリアクション（47.1%）、告白のしかた（41.2%）であった。男性は、返信の遅さ・個別会計・歓迎会での振る舞い（71.4%）、

間接表現（64.3%）、ボディータッチの少なさ・驚いた時のリアクション・告白のしかた（42.9%）であった。

出身地に関しては、南部では、個別会計・歓迎会での振る舞い（80.0%）、返信の遅さ・間接表現（73.3%）、ボディータッチの少なさ（66.7%）、驚いた時のリアクション（46.7%）、告白のしかた（40.0%）の順に選ばれた。北部では、間接表現（81.3%）、返信の遅さ（68.8%）、ボディータッチの少なさ・歓迎会での振る舞い（62.5%）、個別会計・驚いた時のリアクション（56.3%）、告白のしかた（43.8%）であった。

性別による差をみると、「返信の遅さ」、「歓迎会での振る舞い」、「告白のしかた」については、男女の割合にほとんど差は見られなかった。一方で、「ボディータッチの少なさ」については、この課題を文化学習として優先的に取り上げるべきだと評価した割合が、女性のほうが男性に比べて 13.5% 高く、「驚いた時のリアクション」では男性が女性より 10.0% 高かった。「ボディータッチの少なさ」については、自由記述において「女性同士でよく見かけるが、男性同士ではあまり見かけない」といった意見もあったことから、男性よりも女性の方が戸惑いを覚えやすい可能性がうかがえる。また、「間接表現」については、女性のほうが男性より 23.9% 高いという結果であった。言語的・身体的表現の仕方といったコミュニケーション上の文化的差異については、女性の方がより敏感に認識しやすいと推測される。

出身地別にみると、「告白のしかた」では、北部出身者と南部出身者の差は 3.8%，「ボディータッチの少なさ」は 4.2%，「返信の遅さ」は 4.5% であった。比較的差がみられたものには「個別会計」があるが、これを適切な課題として選択した者は、南部出身者において北部出身者より 23.7% 高かった。「歓迎会での振る舞い」でも、南部出身者において適切と

評価した割合は、北部出身者における割合より 17.5% 高かった。その他でも適切とした評価者の割合を見ると、「間接表現」では北部

出身者が南部出身者より 8.0% 高く、「驚いた時のリアクション」では北部出身者が南部出身者より 9.6% 高かった。

表 8 性別・出身地ごとの優先順位

		【場面①】 個別会計	【場面②】 返信の遅さ	【場面③】 ボディータッチの少なさ	【場面④】 告白のしかた	【場面⑤】 間接表現	【場面⑥】 驚いた時のリアクション	【場面⑦】 歓迎会での振る舞い
全体	合計(人)	31	21	22	20	13	24	16
	割合(%)	100.0%	67.7%	71.0%	64.5%	41.9%	77.4%	51.6%
性別	女性	合計	17	11	12	7	15	8
		割合	100.0%	64.7%	70.6%	41.2%	88.2%	47.1%
	男性	合計	14	10	8	6	9	8
		割合	100.0%	71.4%	57.1%	42.9%	64.3%	57.1%
出身	南部	合計	15	12	10	6	11	7
		割合	100.0%	80.0%	66.7%	40.0%	73.3%	46.7%
	北部	合計	16	9	11	7	13	9
		割合	100.0%	56.3%	68.8%	43.8%	81.3%	56.3%

4 おわりに

本研究では、日本人ホスト向けの中国文化アシミレーターを作成するために、中野・田中（2024）の日本人と中国人留学生との対人交流場面における異文化葛藤を基に、7つの課題場면을設定し、それぞれの教示文、選択肢、解説を試作した。それらを示して在日中国人留学生に回答を求め、中国文化理解を促進する「中国文化アシミレーター」としての適切性に関して情報を得ることを目的とした。7つの課題場面のうち、中国文化アシミレーターとしての適切性が低かった場面は、ひとつは場面①個別会計で、38.7%が適切だと思うと回答した。もう一つは場面④告白のしかた（45.2%）で、これらには改善の余地があることがわかった。これら以外の課題場面は、6割から8割の回答者から適切と評価されており、概ね文化学習の課題場面として支持されていたといえる。

また、文化学習として優先的に取り組むべき課題場面は、以下の5つであることが明らかになった；場面①個別会計、場面②返信の遅さ、場面③ボディータッチの少なさ、場面⑤間接表現、場面⑦歓迎会での振る舞い。

今後の課題は、これらの課題場面の教示文、

選択肢、解説の改訂を行い、日本人ホストを対象に、本研究で好評価を得た5つの課題場面を用いた文化学習を、試験的に試みることである。

（教育・学生支援機構留学生センター 講師）
（岡山大学大学院社会文化科学学域 教授）

【引用文献】

- Fiedler, F. E., Mitchell, T., & Triandis, H. C., 1971, "The culture assimilator: An approach to cross-cultural training." *Journal of Applied Psychology*, 55, 95-102.
- 川喜田次郎, 1967, 『発想法—創造性開発のために—』中央公論新社.
- 朱建永・呉小芸, 1997, 『ビジネスマンのための中国人と上手につき合う法』ジャパン・ミックス株式会社.
- 中野祥子・田中共子, 2019, 「日本人学生むけムスリム文化アシミレーターの改訂版を用いた異文化間教育の試み」『文化共生学研究』第18号, 53-66.
- 中野祥子・田中共子, 2024, 「在日中国人留学生の日本人との交流における異文化葛藤：日本人ホスト向け中国文化アシミレー

- ターの作成に向けて」『第7回アジア未来会議 プロシーディングス』
- 日本学生支援機構，2024，「2023（令和5）年度外国人留学生在籍状況調査」（2025年1月30日閲覧）
- 文部科学省，2023，「外国人留学生在籍状況調査」及び「日本人の海外留学者数」等について（2025年1月9日閲覧）
- 三角友子，1998，「日本語学習者に向けたビデオ・カルチャー・アシミレーターを作成」『異文化コミュニケーション研究』第10号，75-95.
- 村山孚，1995，『中国人のものさし日本人のものさし』草思社．
- 渡辺文雄，1994，「異文化接触のスキル」菊池章夫・堀毛一也（編）『社会的スキルの心理学 ―100 のリストとその理論―』川島書店，152-165.
- 奥西有理，2012，「中国人留学生との対人交流における日本人ホストの異文化性認知」『留学生教育』第17号，99-105.

謝辞

1. 東仁人さんによる2023年度岡山大学文学部卒業研究のデータの一部を再構成しました。発表へのご快諾とご協力に感謝致します。
2. 本研究の一部は、科学研究費補助金基盤研究C（科研番号21K0296303）を受けて実施されました。